

# ある日の育児日記から

(94)

佐藤 和代



変身する子が出てきたりするから、やめられないんですよ」。なるほどね、有はどうなるかな。

長い時間を、言葉で説明するなんてできないのかも。経験したことひとつひとつを説明することはできなくても、きつと何かがある中で育ったはず。「行きたくない」が「また行きたい」になっただけで充分、と思うべきなのでしょうね。

泊まりは子どもも保母も大変ですけど、これを見ると、子どもたちすごい自信がついちゃって、大

おみやげ話を楽しみにしてたのに。でもまあ、小さい子にとっては一泊二日という

家ではずっと「行きたくない」と言っていた

でも、「山登りはどうだった?」「うーんと...」

主人公のはずの有は?というわけで、続編です。

かったのね。



3年生のまは、学童キャンプへ行きます。

有の保育園の恒例のお泊まり保育は、今年も御岳山に登って一泊。洞窟探検や夜の肝だめしつき、という保育園とは思えないメニューです。

そして一泊二日のお泊まりから帰り、有の第一声は「また行きたい!」でした。よかった、楽しかったのね。

「きもだめしこわかった?」「えーとね...」「何が楽しかった?」「忘れた...そりやないでしょ、